

64-1 協働と継承（震災の記録の保存・教訓の発信）

事例名	国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」
場所	—
取組時期	応急期・復旧期・復興前期・復興後期
取組主体	国立国会図書館 ほか

取組概要：

国立国会図書館は、東日本大震災の記録を国全体で収集・保存・公開するためのポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」を構築し、地方公共団体や民間団体、報道機関、研究機関等が所有するアーカイブとも連携しながら、震災の教訓の次世代への継承に取り組んでいる。

具体的内容：

■国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」の構築

2011年6月に東日本大震災復興構想会議がまとめた「復興への提言～悲惨のなかの希望～」の巻頭に示された「復興構想7原則」や、同年7月に東日本大震災復興対策本部が決定した「東日本大震災からの復興の基本方針」において、東日本大震災の記録・教訓の収集・保存・公開体制の整備を図り、誰もがアクセス可能な一元的に活用できる仕組みを構築する必要性が掲げられた。国立国会図書館は、総務省と連携して、東日本大震災の記録を国全体で収集・保存・公開するためのポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」を開発し、2013年3月に公開した。



「ひなぎく」という愛称は、「Hybrid Infrastructure for National Archive of the Great East Japan Earthquake and Innovative Knowledge Utilization」の頭文字から付けられており、ひなぎくの花言葉である「未来」「希望」「あなたと同じ気持ちです」に、復興支援という事業の趣旨が込められている。

（左図：国立国会図書館東日本大震災アーカイブ ひなぎく パンフレット（2019年3月）より）

■「ひなぎく」で検索できる主なコンテンツとアーカイブ

「ひなぎく」では、国立国会図書館が収集したコンテンツだけではなく、他機関が所有するデータベースとも連携しており、2020年11月末現在で国立国会図書館のデータベースを含め53データベース、約445万件の文書、ウェブサイト、写真、音声・動画等のデータを検索・閲覧することができる（一部、国立国会図書館内のみで公開している資料も含まれる）。

ひなぎくで検索できる主なアーカイブ

自治体によるアーカイブ	オンラインサービス・動画サービスによるアーカイブ
<ul style="list-style-type: none"> 青森震災アーカイブ（八戸市・三沢市・おいらせ町・陸上町） いわて震災津波アーカイブ～希望～（岩手県） 久慈・野田・普代震災アーカイブ（久慈市・野田村・普代村） 東日本大震災アーカイブ宮城（宮城県及び県内市町村） 郡山震災アーカイブ（郡山市・富岡町・双葉町・川内村） 浦安震災アーカイブ（浦安市） 	<ul style="list-style-type: none"> niconico（ドワンゴ） 東日本大震災写真保存プロジェクト（Yahoo!Japan） 未来へのキオク（Google）
大学・教育機関によるアーカイブ	その他、民間団体が運営するアーカイブ
<ul style="list-style-type: none"> みちのく震録伝（東北大学災害科学国際研究所） 日本災害DIGITALアーカイブ（ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所） はまどおりのきおくー未来へ伝える震災アーカイブー（医療創生大学） 東日本大震災の記録（学校法人東北学院） 	<ul style="list-style-type: none"> NWEC災害復興支援女性アーカイブ 3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク） 3.11いわてNPOチラシアーカイブ（いわて連携復興センター）
報道機関によるアーカイブ	東日本大震災以外の震災に関するアーカイブ
<ul style="list-style-type: none"> NHK東日本大震災アーカイブス（日本放送協会） 河北新報震災アーカイブ（河北新報社） 3.11 忘れないFNN東日本大震災アーカイブ（フジテレビジョン・FNN） 	<ul style="list-style-type: none"> 震災文庫（神戸大学附属図書館） 長岡市災害復興文庫（長岡市立中央図書館文書資料室） みえ防災・減災アーカイブ（三重県・三重大学みえ防災・減災センター） 熊本地震デジタルアーカイブ（熊本県）

ほか

（上表：国立国会図書館電子情報部「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）について」を参考に作成）

主なコンテンツには、東日本大震災の対応に係る国会の審議中継動画や政府インターネットテレビの動画、国土地理院の被災地空中写真、被災地の図書館が保有する証言動画や写真、新聞記事、起業・各種団体が保有する被災地航空写真や被災地での支援活動記録等がある。連携するアーカイブには、地方公共団体、大学・教育機関、報道機関、民間団体、図書館等さまざまな機関のものがあり、東日本大震災はもちろん、阪神・淡路大震災や熊本地震など他の地震の資料も検索できるようになっている。

■ 「ひなぎく」の利活用

ポータルサイトには「ひなぎくを使ってみよう」というページが設けられており、検索語が思い浮かなくでも「ひなぎく」を利用できるよう、活用例が記載されている。また、国立国会図書館の職員が講師となって、災害科学科を開設している宮城県多賀城高等学校で「ひなぎく」を用いた「特別授業 震災アーカイブの活用」を実施したり、中高生の防災学習のために「ひなぎく」の利用マニュアルを掲載するなど、多様な活用を促進している。



中高生向け防災学習マニュアル：「ひなぎく」の使い方

「ひなぎく」の使い方をまとめた、中高生を対象とした防災学習マニュアルをご用意しています。ダウンロードしてお使いください。

国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ
「ひなぎく」の使い方
防災学習のために

主な内容

- 検索できるデジタルアーカイブの例
- 探す：検索キーワードの入力
- 検索のヒント①
- いろいろな検索キーワードを試す
- 検索のヒント②
- 見つからないときは
- 見る：提供元のアーカイブ（外部サイト）で見る
- 利用する：利用規約を確認する

（上図：国立国会図書館東日本大震災アーカイブ ひなぎく 防災学習チラシより）

■外部提供インタフェース(API)の提供

「ひなぎく」では、検索性 API とハーベスト用 API の 2 種類の API を提供している。検索性 API を組み込むことにより、「ひなぎく」の検索窓等を作成することができる。ハーベスト用 API では、「ひなぎく」からメタデータをダウンロードして他のシステムに取り込むこと等ができる。防災科学技術研究所の「地域防災 Web」では、「ひなぎく」の API が活用されており、地方公共団体を指定すると、「ひなぎく」で検索可能な各種災害資料のうち当該地方公共団体の名称が含まれるものが閲覧できるようになっている。また、福島第一原子力発電所事故に関する情報検索システムである日本原子力研究開発機構の「福島原子力事故関連情報アーカイブ」(FNAA)でも、「ひなぎく」の API が活用されており、データベースの連携による情報発信の拡大が図られている。

■他機関のアーカイブの継承

「ひなぎく」は、他機関においてアーカイブ活動の継続が困難となり、他に適切な継承機関等が見つからない場合にその記録等を受け継ぐ取組も実施しており、震災の記録を風化させることなく国として保存し、次世代へ伝えていく重要な役割を担っている。

出典（他の事例集等への掲載）：

- ・ 国立国会図書館東日本大震災アーカイブ
<https://kn.ndl.go.jp/>
- ・ 中川透（国立国会図書館電子情報部）「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）について」令和元年度東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム－震災伝承施設と震災アーカイブ－（2020年1月）
<https://kn.ndl.go.jp/static/2019/11/07>
- ・ 国立研究開発法人防災科学技術研究所 「地域防災 Web と国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）の情報連携が始まりました」（2019年4月）
<https://chiiki-bosai.jp/?module=blog&eid=11019&aid=76070>
- ・ 独立行政法人日本原子力研究開発機構「東京電力福島第一原子力発電所事故関連情報アーカイブ化への取組みの本格化－国立国会図書館、国際原子力機関との連携による情報発信の拡大－」（2014年1月）
<https://www.jaea.go.jp/02/press2013/p14012401/index.html>

活用された制度：

事業費：